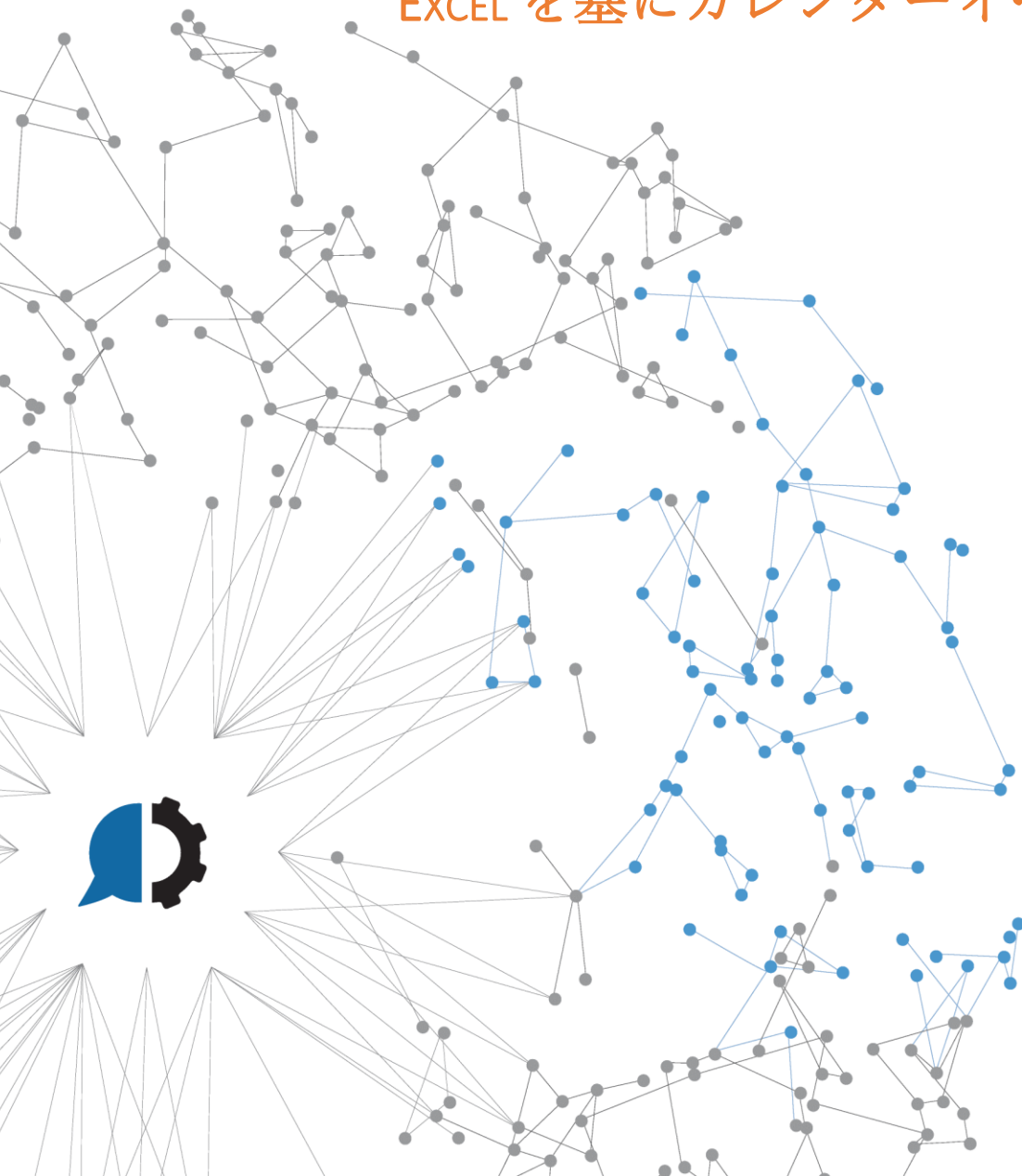




MICROSOFT OFFICE

EXCEL を基にカレンダーイベントを作成





内容

概要.....	3
前提条件.....	4
AUTOMATE タスクをインポートする方法.....	7
入力ファイルの生成方法.....	8
MICROSOFT OFFICE –EXCEL を基にカレンダーイベントを作成の実行方法	9
付録 A –エクセル入力の結果とカレンダーイベントの表示例	11
付録 B –トラブルシューティング	12



概要

このハウツーガイドでは、「Microsoft Office – Excel を基にカレンダーイベントを作成」についてご紹介します。AutoMate は、反復的なマニュアル作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに、ロボティック・プロセス・オートメーションによって IT やビジネスプロセスを合理化します。AutoMate は手作業を代行することで、反復的な作業を大幅に減らし、作業の質と一貫性を向上させることができます。自動化される主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポート・エクスポート、バッチ処理のスケジューリングなどです。

「Microsoft Office – Excel を基にカレンダーイベントを作成」は、Microsoft Graph REST API をベースにしています。INPUT された Excel ファイルのデータを使って HTTP Graph API メソッド「me/events」を実行することで Microsoft のカレンダーイベントを作成し、その実行結果で更新します。このボットは、ユーザー名とパスワードの使用を避けるため、Basic API Token による認証方式を採用しています。トークンはイベントの作成先となるユーザーアカウントに関連付けられますので、カレンダーアカウントごとにボットを用意することになります。また、共有カレンダーにイベントを作成する際に使用できるカレンダーID の定義にも対応しています。「前提条件」と「入力ファイルの生成方法」のセクションをよく確認して、詳細情報を入手してください。

また、「MICROSOFT OFFICE – トークンの生成と更新」も用意されており、このボットを動作させるためのトークンの最初の作成と更新を簡単に行うことができます。



前提条件

- **AutoMate:** Microsoft Office Bot は、AutoMate ソフトウェアに依存して動作します。最低限サポートされているバージョンは以下の通りです。
 - **AutoMate Ultimate 11.2**
 - **AutoMate Plus 11.2**
 - **AutoMate Desktop 11.2**
- **AutoMate Markup Language file (.AML):** Salesforce Bot タスクのステップを含む AutoMate で使用される主要なファイルタイプです。
- **Microsoft Graph:** 最低限必要な要件は以下の通りです:
 - **Microsoft ID Platform に登録されたアプリケーション:** トークンの適切なスコープとリクエストを設定できるようにするために、Microsoft ID プラットフォームにアプリケーションを登録する必要があります。Microsoft への登録方法については、以下の URL をご覧ください。(外部サイトへ移行します。リンク先は英語です)

<https://docs.microsoft.com/en-us/graph/auth-register-app-v2>

- **Token を取得するために、ユーザーなしで Microsoft Graph API にアクセスできるようにアプリケーションを設定:** アプリケーションを登録したら、ユーザーなしでアクセスできるように設定する必要があります。こうすることで、Token を取得することができます。このステップでは、このボットで使用される Microsoft Graph API に許可を与えます。この方法については、以下の URL をご覧ください。

<https://docs.microsoft.com/en-us/graph/auth-v2-service>



このボットを動作させるためには、Microsoft Graph に適切なスコープを与えることが重要です。この場合、Calendars.ReadWrite になります。以下の通りです：

Overview

Quickstart

Integration assistant (preview)

Manage

Branding

Authentication

Certificates & secrets

Token configuration

API permissions

Configured permissions

Applications are authorized to call APIs when they are granted permissions by users/admins as part of the consent process. The list of configured permissions should include all the permissions the application needs. [Learn more about permissions and consent](#)

+ Add a permission

Grant admin consent for HelpSystems

API / Permissions name	Type	Description	Admin consent req...	Status
Microsoft Graph (2)				
Calendars.ReadWrite	Delegated	Have full access to user calendars	-	
User.Read	Delegated	Sign in and read user profile	-	

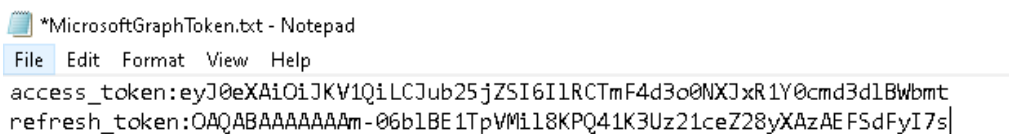
- **Microsoft Graph Token:** Microsoft Graph 接続に生成されるトークン。ワークフローのトークン生成には複数の種類があるので、自分に合ったものを選ぶとよいでしょう。ただし、トークンの生成方法については、MICROSOFT BOT - GENERATE AND REFRESH TOKEN を確認するとよいでしょう。このボットは、Authorization Code と Refresh Token のワークフローをベースにしています。
- **Microsoft Graph API Version:** このボットは、Microsoft Graph API v1.0を利用して作成されています。



- AutoMate にて Microsoft Graph の接続値を設定する値:
 - `const_MicrosoftGraphURL`: ドメインの Microsoft Graph URL を格納します。
例: `https://graph.microsoft.com`
 - `const_MicrosoftGraphToken`: Microsoft Graph Token: 接続/リクエストを実行するための Microsoft Graph Token を格納します。トークン値そのもの、またはトークンを含む .txt ファイルがあるパスを設定できます。例 `C:\Automate\MicrosoftGraphToken.txt`
.txt ファイルを使用する場合、トークンは次のような形式/構造である必要があります。

アクセストークン:トークンの文字列

例:



```
*MicrosoftGraphToken.txt - Notepad
File Edit Format View Help
access_token:eyJ0eXAiOiJKV1QiLCJub25jZSI6IiRCTmF4d3o0NXJxR1Y0cmd3d1BWbmt
refresh_token:OAQABAAAAAAM-06b1BE1TpVMi18KPQ41K3Uz21ceZ28yXAzAEFSdFyI7s|
```

注意: refresh_token の値がありますが、これは「Microsoft Office - トークンの生成とリフレッシュ」によって管理されています。

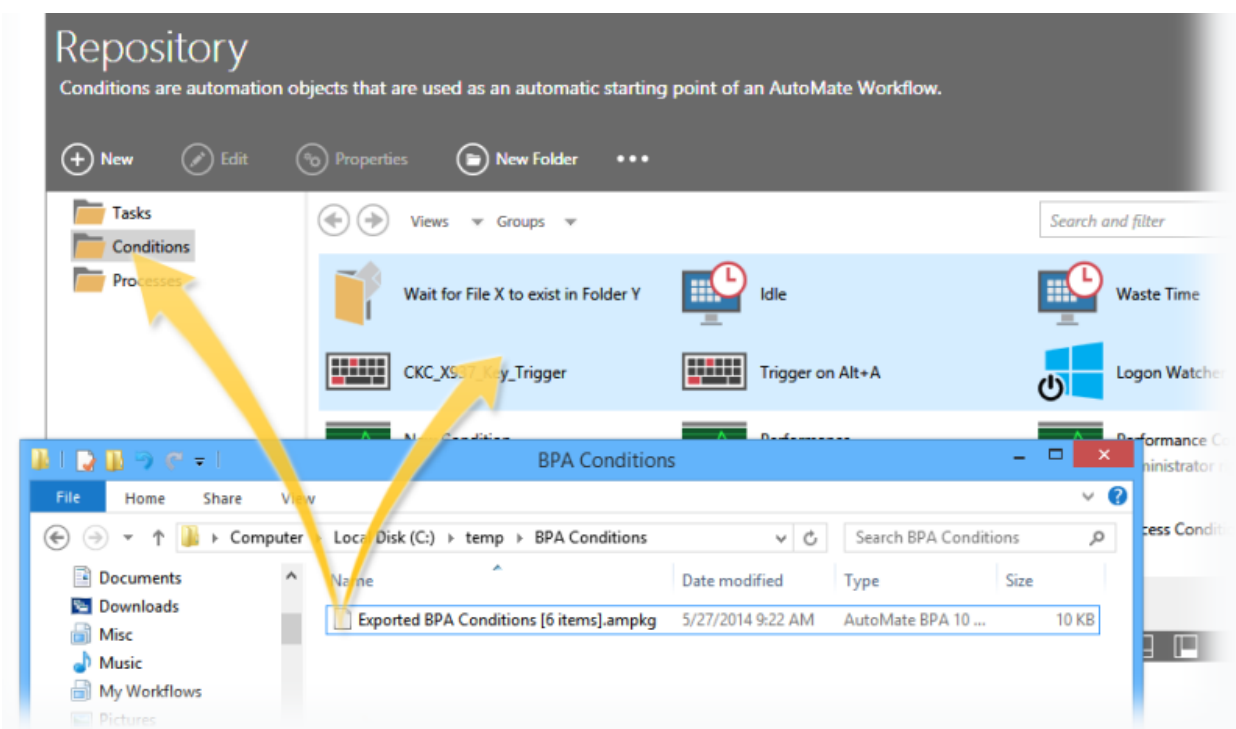


AUTOMATE タスクをインポートする方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでリポジトリに取り込むことができます。

サーバー管理コンソール(SMC)から、[リポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。





入力ファイルの生成方法

Microsoft Bot に同梱されている入力ファイル「MS Calendar Events Create Events INPUT.xlsx」には、トランザクションのすべての項目に自動的に入力するための説明ガイドが用意されています。

Excel の入力ファイル

A	B	C	D	E	F	G	H	I
MS Calendar Event Fields:								
Subject	AllDay (X or Blank)	Is Reminder On (X or Blank)	Location	Importance	StartDateTime dd/mm/YYYYTHH:mm:ss Example: 15/05/2020T11:00:00	EndDateTime dd-mm-YYYYTHH:mm:ss Example: 15/05/2020T11:00:00	Body Text or HTML format	Attendees Format: Attendee1 <Attendee1@domain.com>;Attendee2 <Attendee2@domain.com>

J	K	L
Created?	Details	
Yes/No	Date	Event ID / Result Message

注意事項:

- 赤字で示した書式に注意してください。
- INPUT ファイルの J 列から L 列には、実行結果と作成時のイベント ID が記入される。結果に関する例は、付録 A を参照してください。

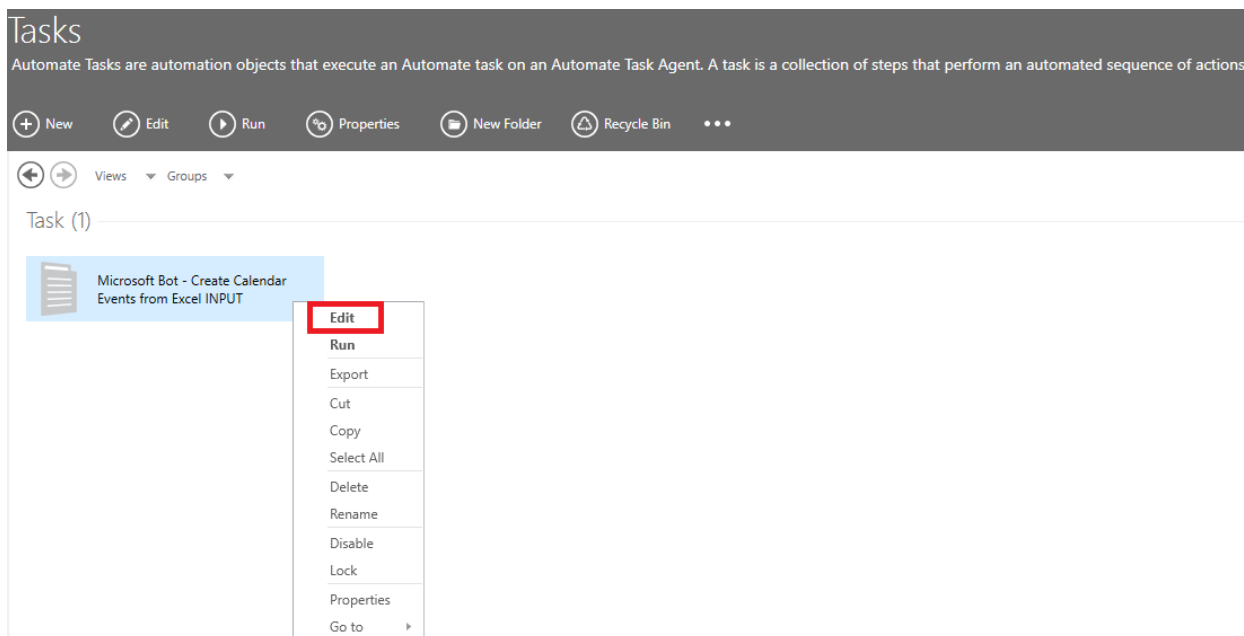


MICROSOFT OFFICE – EXCEL を基にカレンダーイベントを作成の実行方法

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメータを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、**編集**を選択して編集します。



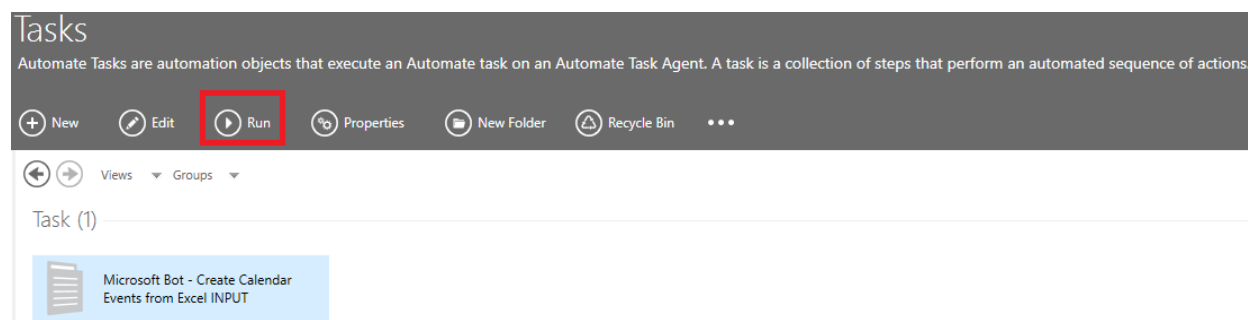
ステップ 2 からは、希望する出力に応じて次の変数を編集してください:

- **var_ExcelInputFile:** イベントを作成するための MS Calendar Events の INPUT ファイルの場所パスと名前を設定します。
- **var_CalendarTimeZone:** 適切なタイムゾーンを設定します。例 UTC、E.南米標準時。で紹介した表の「タイムゾーン」欄で、対応するタイムゾーンを確認できます。
<https://docs.microsoft.com/en-us/windows-hardware/manufacture/desktop/default-time-zones>
- **var_CalendarID:** 必要であれば、カレンダーID を設定します。それ以外の場合は空欄のまま、接続しているユーザーの主なカレンダーが設定されます。

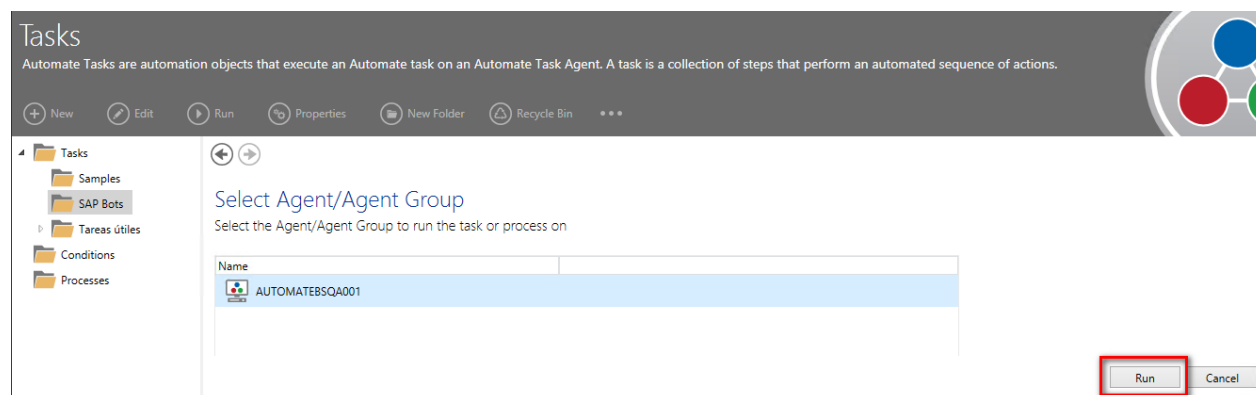
タスクを保存して閉じます。



タスクを選択し、「実行」をクリックします。



エージェントを選択し、再度[実行]をクリックします。





付録 A-エクセル入力の結果とカレンダーイベントの表示例

Excel ファイルには以下の通り結果が入力されます:

A	B	C	D	E	F	G	H	I
MS Calendar Event Fields								
Subject	AllDay (X or blank)	Is Reminder On (X or blank)	Location	Importance	StartDateTime dd/mm/YYYYTHH:mm:ss Example: 15/05/2020T11:00:00	EndDateTime dd-mm-YYYYTHH:mm:ss Example: 15/05/2020T11:00:00	Body Text or HTML format	Attendees Format: Attendee1 <Attendee1@domain.com>;Attendee2 <Attendee2@domain.com>
Automate Event 1		X	Meeting Room 1	Normal	10/06/2020T11:00:00	10/06/2020T12:00:00	Automate Event 1	
Automate Event 2	X		GotoMeeting	Normal	10/06/2020T00:00:00		Automate Event 2	
Automate Event 3		X	Webex	Normal	10/06/2020T13:00:00	10/06/2020T14:00:00	Automate Event 3	Attendee1 <Attendee1@domain.com>;Attendee2 <Attendee2@domain.com>

J	K	L
Created?	Details	
Yes/No	Date	Event ID / Result Message
YES	11/06/2020 9:46:15 AM	.hOWZILTA1MzkxMWNhMDg3MgBGAAAAAAX6J72EP1KTYpRVHMMspetBwAS93tdQCLnQLoUISghaSP8AADF
YES	11/06/2020 9:46:17 AM	.hOWZILTA1MzkxMWNhMDg3MgBGAAAAAAX6J72EP1KTYpRVHMMspetBwAS93tdQCLnQLoUISghaSP8AADF
YES	11/06/2020 9:46:20 AM	.hOWZILTA1MzkxMWNhMDg3MgBGAAAAAAX6J72EP1KTYpRVHMMspetBwAS93tdQCLnQLoUISghaSP8AADF

実行結果は J 列から L 列に書き込まれ、L 列にはカレンダーイベント ID が作成されることに注意してください。

カレンダーイベント表示結果:

◀ ▶ June 10, 2020 Cerqueira César, São Paulo ▾

☀ Today 83°F / 59°F ☀ Tomorrow 84°F / 60°F ☀ Saturday 84°F / 66°F

WEDNESDAY

10

Automate Event 2; GotoMeeting

8 AM

9

10

11 Automate Event 1
Meeting Room 1

12 PM

1 Automate Event 3
Webex



付録 B – トラブルシューティング

- Logs: 各ボットはトラブルシューティングのためにログファイルを作成します。ログファイルは C:\AutomateTasks\Tasks<<TASK NAME>> 配下にあります。デフォルトでは、タスク名は「Microsoft Office -EXCEL を基にカレンダーイベントを作成」です。

About HelpSystems

Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and Automate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people